

キャリア指導の現場から ⑬

東京都立晴海総合高等学校 キャリアカウンセラー

千葉吉裕

貧困への不安

テクノロジーの変化が早すぎて、対応が追いつかない。

2009年に爆発的な普及が始まったスマートフォンは、高校生の間でも大流行だ。歩行中、スマートフォンに夢中になって怪我をする事故も相次いで報道されている。それほど、スマートフォンは、魅力的な商品であることは間違いない。その魅力に取り付かれている人は、日本国内に留まらず、全世界の人々と言っても過言ではないだろう。

スマートフォンは、パソコンの特徴が取り入れられている携帯電話である。インターネットへのアクセスが今まで以上に身近になり、ネット上のサービスを利用する頻度は高まっている。この変化によって、日常生活もビジネスも一変した。情報の獲得方法の変化、コミュニケーションコストは大幅に低下、人工知能のアシストによる情報分析の質と速さの改善等々、起こっている現象を挙げれば切りがない。このテクノロジーの進歩によって生じる社会を想像すると、便利で快適な未来の到来が楽しみになる一方で、変化に取り残される不安も高まっている。

歴史を振り返れば、産業革命によって機械工業がもたらされた時、手工業の熟練工は職を失い、機械打ち壊しの運動まで起こったという。しかし、機械を破壊したところで、産業革命前の生活に戻ることはできなかった。テク

ノロジーの進化には抗えない、受け入れられない。すると、未来に生きるためには、変化を予想し、主体的に未来を切り開く態度を備えるしかない。しかも、進化の飛躍的なスピードに対応しなくてはならず、のんびりしている暇も与えてくれない。過去に対応策を探しても、教訓は学べても、新たな問題だけに答えは見つからない。

では、この激変を国は予想していなかったのかと問えば、答えは「No」だ。平成7年4月、文部大臣(当時)は、中央教育審議会に、「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」諮問した。それを受けて、平成8年7月、答申が発表され、その中で、次のように示した。

「いかに社会が変化しようと、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力であり、また、自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性であると考えた。たくましく生きるための健康や体力が不可欠であることは言うまでもない。我々は、こうした資質や能力を、変化の激しいこれからの社会を「生きる力」と称することとし、これらをバランスよくはぐくんでいくことが重要であると考えた」

約20年前に、この変化を予想し、子どもたちに「生きる力」を身に付けさせようとしてきた。この答申を受けて

改革された教育を受けてきた人たちは、この劇変する社会の到来に決して驚かず、果敢に、変化に挑戦している。社会をリードする人材はたくさん育っている。その一方で、改革から取り残されてしまった人たちがたくさんいることが問題である。

産業革命と同様に、テクノロジーが人の労働を急速に奪う現実が見えてくる。消失する業界だってあるだろうし、大量の失業者も生じるだろう。新しい職業への転職がスムーズにできればよいのだろうが、旧来の技術と違い過ぎるので簡単には対応できないだろう。加えて、生産効率が大幅に向上するので、新たな雇用よりも、失業する人数が多いのではないだろうか。貧困への恐怖、現実にならなければよいのだが。寒い冬の到来に対し準備しなかったキリギリスと、堅実に準備したアリの子のソップ童話の教訓が頭をよぎる今日この頃、遅れても気が付いたら、変化へ対応を今すぐに始めてほしいと思う。

ロンドン・ビジネス・スクール教授、リンダ・グラットン氏は著書『ワーク・シフト』の中で、「先進国を含めて世界中のあらゆる地域に貧困層が出現する。グローバルな市場で求められる高度な専門技能をもたず、高齢化が進む都市住民サービスのニーズにこたえる技能と意思もない人たちが、グローバルな下層階級になる」と記している。変化対応を怠れば、多くの人が不幸に陥るに違いない。